

生命科学研究所生理科学専攻における学生履修モデル4

社会的背景

人間の心の働きを科学的に明らかにすることにより、ヒトのヒトたるゆえんを理解したいという社会的関心の拡大

研究の関心

ヒトの脳活動の非侵襲的計測法に認知心理学の手法を応用して、健常人の高次脳機能の仕組みを明らかにしたい。

修士課程又は博士前期課程（境界領域分野）

大学大学院文学研究科心理学専攻修了

（認知心理学、言語学、教育心理学、統計学）

修士論文：「反復プライミングにおける空間的注意の影響の研究」視覚刺激の心理強度を空間的注意の有無により操作した状態でプライミング効果の大きさを測定し、空間的注意がプライミングに影響することを心理学的に示した。

生理科学専攻（3年次編入学）

大脳生理学講座

入学後の履修課程

3 - 5年次

総合教育科目

「学生セミナー」広範な領域の自然・人文科学にふれ人間理解の広い視点を養う

共通専門科目

「神経科学」脳神経系の構造と機能に関する基本的な事項を学習

「生命科学プロGRESS」, 「生命科学論文演習」

「生命科学実験演習」

専攻専門科目

「感覚認知機構学」外界からの感覚刺激に対する中枢神経系の認知機構の学習

「学習記憶機構学」学習・記憶の中枢メカニズムについて学習（脳磁場計測装置を使用）

「生理科学研究技術特論」ヒトの脳活動非侵襲計測法について学習（脳磁場計測装置を使用）

学位論文の作成

論文テーマ「視覚パターン弁別時における注意によるヒト脳活動の変化の研究」視覚パターンを弁別している時のヒトの後頭葉の活動が、特定のパターンに注意を向ける時に前頭葉の活動と相関して変化することを脳磁図、機能的MRIと経頭蓋磁気刺激を併用することにより立証する。

学位の種類：博士（学術）



306チャンネル脳磁場計測装置

進路例 心理学と認知神経科学の学際的な能力を身に付けた研究者として高等教育機関、研究所に身をおきながら医療機関とも共同研究を行い、高次脳機能の基礎研究と共に老齢や精神障害の仕組みの解明に貢献する。